

## 果樹の新品種とその特性

### ～ブドウ「高尾」について～

東京都農業試験場

芦川 孝三郎

#### 1. ま え が き

たねなしブドウは現在、消費者から非常に歓迎され、その消費も順調に伸びている。しかしその主体はデラウェアだけといってもよく、ジベレリンの2回処理によって、果粒の無核化と肥大をはかっているのが、本来のたねなしブドウの出現が待望されているが、まだ実現していない。

このたび当场で育成した新品種「高尾」も、ジベレリン処理を必要とするのであるが、その処理が1回ですみ、デラウェアに比し果粒や果房がはるかに大きく、特異な性状をもっているのが、ここにご紹介する。

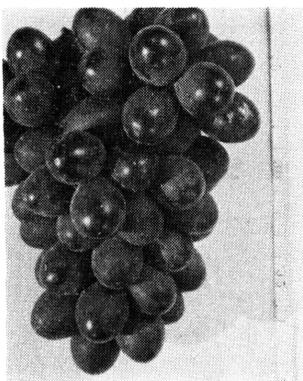
#### 2. 育 成 経 過

ブドウに巨峰という品種があり、果粒が巨大で食味も優良なため、ひろく好評を博している。しかしこれは一面では、生産者泣かせの品種で、とくに花振いの防止には多大の苦心を要する。

そこでこの点を改良する目的で、1956年秋、巨峰の自然結実果から得た種子約120粒を播き、実生を育成してみた。その後6～7年たつと、続々と結実してきたが、花振いしない系統はついに得られなかった。そこで全系統に対し、ジベレリン処理を施してみたところ、無核化が容易で品質のすぐれた系統が現われた。これが「高尾」で、最初は「立川1号」と仮称していた。

当初は無核種のように見えたが、よく調べてみると、無処理ではやはり若干、有核粒を生じるこ

第1図「高尾」の果房



とがわかった。しかし開花末期の1回処理だけで、充分商品性のある果房が得られるので、本格的な無核種が出現するまでの間、つなぎの品種としての役割りは果せるのではないかと考えている

1967年度から、農林省主催の系統適応試験の中で、各地の試験場において検討されているが、まだ着果し始めた段階のところが多く、詳細については今後の検討にまたねばならない。

#### 3. 特 性

(1) 樹性 全体として巨峰に似ている。樹勢は旺盛で枝は太く、伸長力も強い。葉裏のじゅう毛はほとんどみとめられない。

花芽の着生は巨峰よりやや少な目であるが、細かい結果母枝や副梢からも、比較的大きい果房を生じる。

巨峰に比し萌芽展葉はやや早いが開花は少しおそい。耐病性は巨峰と同程度のようで、とくに特定の病害に対し、抵抗性が弱いというようなことはみとめられない。

(2) 果実 本種は無処理では満足な果房は得られない。花振いがおこるし、また1果粒が4～5gにしかならない。ジベレリン処理した場合には別品種と見ちがえるほどの果粒、果房を生じる。

果皮は紫黒色を呈し、やや厚く丈夫で裂果のおそれは少ない。果粒は長味をおび1粒7～8gが標準であるが、大きいものは10g以上にも達する。果房は放任しておけば大きくなりすぎるので、整形して400～500g程度におさえる。

糖度は17～18度で酸味は少なく、肉質は硬く緊っていて独特の風味がある。果実の芳香は巨峰に似ている。果皮と果肉の分離はやや不良であるが、食べなれば別に問題はない。

日もちちは8月の高温時には5～6日であるが、9月に入ってやや冷涼な状態になれば7～10日は大丈夫である。果実の成熟期は東京で8月中、下旬である。

第2図「高尾」の結果状況



4. ジベレリン処理

デラウェアの場合と同じく、まず樹をよく充実させておくことが大切である。体内の栄養条件が不良の場合には、ジベレリン処理に細心の注意を払っても、花振いをおこすおそれがある。

(1) 処理時期 開花末期から開花終了後4~5日目くらいまでが適期である。開花前に処理する必要はみとめられない。開花直後の処理だけで、完全に無核化できる。

(2) 処理前の新梢の摘心および花穂の整形 開花の3~7日前(東京で5月下旬~6月上旬)に新梢の先端を摘心する。

発育が旺盛のものはもちろん、中程度のものにも実施する方がよい。花穂に対しては、岐肩を含め、上部3~4段の小花穂と下端を若干摘除する。

(3) 処理適期の花穂の状態と処理濃度 処理時期があまり早すぎると、摘粒効果が出たり、また果房が屈曲しやすい。おそすぎると果粒を十分に肥大させることができない。その適期は、デラウェアのように、予測するのではなく、開花という明瞭な現象が指標なので、判定が容易である。

第3図 花穂の開花末期の状況 (ジベレリン処理適期)



第3図の時期が適当で、花穂の先端が開花を終る頃から4~5日目までの、約5~7日の期間が

第1表 ジベレリン処理時期が果房に及ぼす影響 (1972)

ジベレリン 処理時期	果房長	果房重	果房長 1cm当 り重量	1果房 粒数	1果 粒重	果汁 糖度	果梗重	果梗 段数
	cm	g	g	個	g	度	g	段
開花盛り	17.9	433.3	24.2	60.0	7.1	17.8	7.7	21.5
開花末期	17.1	550.6	32.2	74.8	7.2	17.5	9.8	22.5
開花後3日目	17.7	533.8	30.2	65.6	8.0	17.4	10.3	21.4
開花後7日目	15.8	380.5	24.1	54.3	6.9	16.8	7.4	21.2
無処理	19.5	243.0	12.5	71.0	3.4	17.3	4.0	26.0

(注) 1972年5月30日開花始め, 6月2~4日開花盛り, 6月5~7日開花終り, 8月25日収穫

適期である。処理時期別の試験結果については第1表のとおりである。

処理は浸漬でも噴霧でもさしつかえない。処理濃度は50 P P mでもかなりよい成績を示しているが、やはり100 P P mが最良である。(第2表, 第3表参照)

第2表 GA 処理濃度試験成績

(1202号台6年生樹 1971)

GA 処 理濃度	果 房 長		果房重	1 粒重	糖 度
	処理時	収穫時			
	cm	cm	g	g	度
10ppm	15.3	17.3	301.8	6.6	16.8
25ppm	15.9	17.5	449.8	7.3	17.0
50ppm	15.5	18.0	486.7	7.4	17.0
100ppm	15.6	19.3	529.8	7.2	17.2
無処理	15.4	16.7	223.2	4.6	17.4

第3表 GA 処理濃度試験成績 (15年生原木 1971)

GA 処 理濃度	果 房 長		果房重	1 粒重	糖 度
	処理時	収穫時			
	cm	cm	g	g	度
10ppm	13.6	15.5	365.4	6.1	17.5
25ppm	13.6	14.7	384.0	7.0	17.7
50ppm	13.7	16.3	442.8	7.3	18.0
100ppm	13.4	16.7	490.0	7.5	18.1
無処理	13.2	13.9	152.5	4.3	18.3

5. 「高尾」栽培上の問題点

(1) 凍害 本種は樹勢旺盛で徒長しやすいので、つとめて枝梢の充実をはかる必要がある。化学肥料としての窒素は原則として施用しない方がよい。りん酸, 加里, カルシウム等は十分に施用する。

果房の成らせすぎは絶対に禁物で、10 a 当り1,000~1,200kg程度におさえ、最良の条件の場合でも1,500kgをこえないようにする。これらの点に注意しないと、凍害をまねくおそれがある。

(2) 果梗の硬化 シベレリン処理によって果梗の硬化することはさけられないが、各種の条件によってかなり相異なる。処理時期が早い場合、処理濃度が高い場合、結果母波の充実不良の場合等に、硬化の程度が強くなる。

しかし摘粒の程度に注意し、適度に果粒を密着させるようにすれば、果梗の硬化に伴う脱粒の問題はほとんど解決できる。